



アメリカ

子どもの車内置き去り・閉じ込め事故を防ぐために

- NHTSA ホームページ <https://www.nhtsa.gov/heatstroke-kills-children>
- CR(コンシューマーレポート) ホームページ <http://www.consumerreports.org/child-safety/800-kids-have-died-in-hot-cars-why-arent-alert-systems-standard/>
- ADVOCATES(道路交通安全支援者団体) ホームページ <http://saferoads.org/2017/06/07/media-advisory-child-safety-news-conference-with-live-webcast-on-67/> ほか

暑い時期になると、悲惨な子どもの車内置き去り・閉じ込め事故が増える。NHTSA(運輸省道路交通安全局)によると、犠牲者は1998年以降で701人に上る。無責任な保護者や虐待が想起されるが、事故の多くは一般的な家庭で起きている。子どもを保育所に送ったつもりが、会社の駐車場の車内で生後9カ月のわが子が亡くなっていたケースなど、愛情を持って育てていても疲労やストレス等で注意散漫となり、後部座席のわが子の存在を失念する可能性もあるとNHTSAは指摘する。また、気づかないうちに子どもが車内に入り込むケースも3割に上る。

そこでNHTSAは6月に「全国車両熱中症防止キャンペーン」を開始。●自動車から離れる前に後部座席を確認 ●玩具などをチャイルドシートに置き、子どもが座ったらリマインダーとして運転者が見える場

所に移動する ●運転者やルートが異なる日は子どもが安全に到着したかを確認 ●子どもの手が届く範囲に自動車のキーを放置しない、などをアドバイスしている。今年には既にフロリダで犠牲者が出ており、外気温が14℃でも閉め切った車内温度は短時間で43℃近くまで上昇し、子どもには致命的であるとして年間を通して注意すべきとしている。

超党派の3議員により、「ホット・カー・アクト2017」も提出された。既に後部座席リマインダー搭載車や体重センサー付きチャイルドシート等もあるが、「置き去りをするはずがない」と購入までには至らないようだ。法案では、キー閉じ込み警告システム等の装備が進むなか、子どもの生命にかかわる後部座席確認の警告は必須だとして、全乗用車に車内閉じ込め警告システムの標準装備を求めている。



オーストラリア

平飼い(レンジフリー)卵の購入ガイド

- CHOICE ホームページ <https://www.choice.com.au/food-and-drink/meat-fish-and-eggs/eggs/articles/what-free-range-eggs-meet-the-model-code>
<https://www.choice.com.au/food-and-drink/meat-fish-and-eggs/eggs/articles/free-range-eggs>
- PISC「動物の福祉のためのモデルコード家禽4版」 <http://www.publish.csiro.au/ebook/download/pdf/3451> ほか

家畜のアニマルウェルフェア(家畜の快適性に配慮した飼養管理)の重要性が増している。オーストラリアでは、鶏がすし詰め状態で産卵するケージ卵ではなく、平飼い(レンジフリー)卵が、2倍近い価格にもかかわらず売れ行きを大きく伸ばしている。

CHOICE(オーストラリア消費者協会)のアンケート調査では、65%が過去1年間にレンジフリー卵を購入したと回答。その理由はアニマルウェルフェアが68%で第1位、生産者支援(52%)、味が良い(44%)などであった。しかし、CHOICEは、基準のあいまいさから消費者が必ずしも期待どおりのレンジフリー卵を購入できない可能性を指摘している。

PISC(第一次産業常任委員会)の『動物の福祉のためのモデルコード家禽4版』は、●鶏が昼間最低8時間戸外で自由に動く ●風雨を避け通気の良い鶏舎

●飼養密度が1,500羽/畝以下、などを推奨している。昨年政府は、飼養密度を10,000羽/畝以下に定めたが、各州の基準は統一されておらず、各団体も独自に飼養密度を掲げている。68%の消費者はレンジフリー卵の保証付きなら高くても購入するというが、28%は購入した卵が基準どおりか疑っている。

CHOICEでは、調査した各ブランドの飼養密度一覧を公表し、ブランド名等を入力すれば数値が示される無料アプリも発表した。一覧には1,500~10,000羽/畝の生産者・ブランド名のほか、飼養密度が非公開、不当表示で有罪となった生産者も掲載されている。CHOICEは、レンジフリー卵表示に値しない卵のボイコット・キャンペーンを開始。国や州政府に対し、消費者の希望に沿う基準の制定へ向けた運動を展開している。



ドイツ

効き目のある外用鎮痛剤は

●エコ・テスト出版『エコ・テスト』2017年4月号 <http://www.oekotest.de/cgi/index.cgi?artnr=109252&bernr=06&gartnr=1&suche=SALBEN%20SCHMERZs>
 ●UBA ホームページ <http://www.umweltbundesamt.de/presse/pressemitteilungen/anzsmittel-in-der-umwelt-sind-eine-globale> ほか

サッカー、スキーなど趣味のスポーツで筋肉や関節を痛めたとき、まずは市販の塗り薬で対処する消費者が多い。処方箋不要の鎮痛消炎剤の売り上げは、5億6700万ユーロ以上(2016年)といわれ、ドイツで一大市場を築いている。しかし、さまざまな有効成分を含む商品があふれ、選択は容易ではない。

そこで、『エコ・テスト』では、医薬品に分類される鎮痛消炎剤(軟膏、クリーム、ジェル) 19商品を試買し、薬学の専門家にテストを委託した。評価に際して重視したのは、有効成分の効能が臨床的に実証されているかという点である。ただし、効き目があっても、環境に悪影響を及ぼす場合や、余分な添加物を含む場合は減点することとした。

その結果、フルフェナム酸、フェルビナク、イブプロフェン、ピロキシカム、エトフェナメートのい

ずれかを含む商品は、総合的に評価が高くなった。また、ジクロフェナクも症状を鎮める効果があると評価されたが、環境への悪影響が懸念されるとして減点された。UBA(連邦環境庁)の委託調査によると、50カ国の水環境中で医薬品由来のジクロフェナクが高濃度に検出され、水生生物へ悪影響を及ぼす可能性が指摘されているからである。

一方、アルニカチンキを主成分とする4商品は、効能が実証できないと判断された。アルニカは山岳地帯に自生し、黄色い花をつける薬草で、打撲・捻挫を鎮めるとして古くから重用されてきた。同誌は、アルニカには一定の薬効があることを経験上認めているようだが、効能を実証するほどの十分な研究資料に欠けるとして、厳しい評価となった。



ドイツ、オーストリア

シニアが使いやすい携帯電話は

●商品テスト財団『テスト』2017年1月号 <https://www.test.de/Seniorenhandy-im-Test-4494276-0/>
 ●VKI『消費者』2017年4月号 <https://www.konsument.at/cs/Satellite?pagename=Konsument/MagazinArtikel/Detail&cid=318899491736> ほか

加齢とともに、小さな文字が読みにくくなり、細かい作業が苦になるのは、自然の流れだろう。そこで登場したのが、大きな操作ボタン、読みやすいディスプレイ等を備えた「シニア用携帯電話」である。商品テスト財団では、シニア用の従来型携帯電話13商品とスマートフォン2商品を対象に、機能や使用性をテストし、『テスト』誌に結果を掲載した。また、同財団からテスト結果を提供された姉妹団体のVKI(オーストリア消費者情報協会)も、独自の視点を加えながら月刊誌『消費者』に記事を掲載した。

使用性のテストでは、①視力 ②聴力 ③手先の動作にそれぞれ問題を抱えるシニア3人ずつ(合計9人)の協力を得て、ディスプレイの見やすさ、音声の聞き取りやすさ、ボタン操作のしやすさなどを実際に試してもらった。

その結果、従来型では2商品の総合評価が高かった。特に、日本ブランドの折りたたみ式携帯電話は、使いやすさに加えて、電池の持ちも良く、最高点を獲得した。ただし、外被に傷が付きやすく、頑丈さは完全ではないと指摘された。一方、スマートフォン2商品では、1商品の総合点が高かったが、視力または手先の動作に問題がある人にとっては、もう一方の商品のほうが使いやすいと評価された。

また、シニアに安心な緊急通報機能は、全商品が備えていた。非常ボタンを押すと、登録された通報先の1つに連絡がつくまで、ショートメールまたは音声を順次発信するしくみである。ところが、メールボックスか留守電に到達した時点で緊急通報機能の順次発信は終了し、緊急通報の意味がない商品が目立ったという。